

JAEF REPORT

平成31年1月5日

年4回発行(1,4,7,10月)

(公財)日本自動車教育振興財団 活動報告

【目次】

- | | |
|-----------------------|----------------------------|
| ◆ 新年のご挨拶 | ◆ 各部会・委員会にて平成30年度上期活動状況を報告 |
| ◆ 15府県で教材贈呈式を開催 | ◆ 30都道府県(53件)の研修会に講師を派遣 |
| ◆ 平成30年度第6回JAEF研修会を開催 | |

新年のご挨拶

財団運営

新年おめでとうございます。

旧年中は弊財団に対し格別のご支援・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨今の自動車業界は、電動化や自動運転などの急速な技術進展により「100年に一度の変革期」とも称されています。また自動車整備士をはじめとした今後の自動車産業を支える人材の確保が喫緊の課題となっています。こうした中、平成30年度は高校生のクルマに対する関心を高めるべく、高校生・先生方に対する支援・情報提供の一層の強化を行ってまいりました。

技術教育支援事業では、15府県102校に自動車技術教育用教材の提供を行いました。教材の中身では、教育効果を高めるため、視聴覚教材の統合・追加や新技術に関する実習用教材の新設など提供教材の大幅な見直しを実施しました。この結果、新たに設けた教材への応募が多数に上り、見直しの効果は大きかったと考えております。

また、都道府県レベルでの自動車関係団体と高校との連携強化を図るべく、教材贈呈式・教育懇談会の場を活用してインターンシップ等の取り組みについて意見交換したり、自動車の最新技術に関する講師派遣でご協力をいただいている自販連支部やディーラーの活動を業界紙で取り上げてもらうよう働きかけを行ってまいりました。

研修事業では、高校の先生方を対象とした研修会を従来の4回から一気に6回に増やし、特に首都圏以外での開催を増やし、少しでも多くの先生方が参加できるよう工夫いたしました。狙い通りに従来以上の数の先生方に参加申し込みをいただきましたが、残念ながら昨年は台風などの自然災害が多く授業の振替が多発した結果、直前で参加を見合わせる先生が多数ございました。

また講師派遣(出前授業)では、これまで対象を先生方としていた環境技術(電動化)、交通技術(自動運転)に関する講義を生徒も受講可能としました。

これまでほとんど派遣実績がなかったこれらのテーマですが、話題のテーマということもあり、昨年は実に16件の派遣要請がございました。さらに「バイクの交通安全」に関する実技形式の講師派遣メニューを新設し、3校から派遣要請を受けました。一方で、自転車の交通安全をテーマとした講師派遣については、自然災害の影響による授業カリキュラム変更のため、派遣要請が1割以上減少いたしました。

調査研究事業では、「電動化」をテーマにした欧州と国内の調査を実施したほか、講師派遣で「バイクの交通安全」メニューを新設したのと連動し、バイク「3ない運動」見直しの動きを調査し広報誌で展開致します。また、社会科系の授業で2022年度から「公共」が必修科目となる予定です。自動車は裾野が広い産業であり、現代社会の様々な分野で考察の材料があります。財団では「公共」の導入を先取りし、高校の先生方と協働して「公共」用の副教材作成に着手しました。

最後に普及啓発事業では、全国約5,900校の高等学校に広報誌の提供を重ねると共に、ホームページやニュースリリースなどにより、高校やマスコミへのタイムリーな情報発信を行いました。特に昨年は、財団活動の記事化を積極的に働きかけることにより、前述の自動車の最新技術に関する講師派遣についてほぼ全件記事化していただいたほか、栃木県で行ったJAEF研修会は業界新聞1ページフルで紹介いただきました。

このように昨年は様々な新しい取り組みに挑戦し、自動車教育の輪をさらに広げることができたのではないかと思います。財団は、今年も自動車教育を通して次世代を担う高校生の育成に取り組む所存でございます。今年は東京モーターショーや地方モーターショーの開催年です。より多くの高校生がモーターショーに来場できる仕組み作りに挑戦したいと考えておりますので、引き続き皆様のご指導・ご鞭撻を宜しく申し上げます。

INFORMATION

1~3月予定

- 7都道府県(11件)の研修会に講師を派遣 1月~3月
- 各部会、委員会を開催 2月
- 第18回理事会を開催 3月12日

15府県で教材贈呈式を開催

・・・平成30年10月10日～12月5日

技術教育

財団は、平成30年度の技術教育支援事業の一環として、自動車技術教育用教材を15府県102校に提供することとなった。教材提供に際して、10月に3県、11月に10府県、12月に2県の計15府県において、各府県自動車教育推進協議会*（以下、推進協議会）と共催で「自動車技術教育用教材贈呈式」（以下、贈呈式）を開催した。

贈呈式には計310名（学校関係者189名、推進協議会関係者91名、及びマスコミ関係者30名）が出席し、大変盛り上がりのあるものとなった。各地で地元TV局や新聞社などのマスコミ取材を受け、その報道を通じて各地域での推進協議会活動に対する理解の促進に繋がった。

本年の提供校数は、同地域の前回（平成27年度）より1校多い102校。その全ての高校に対して、第一希望の教材を提供することが出来た。

贈呈式では全ての開催府県において、参加いただいた学校関係者、財団および推進協議会のメンバーによる、地域に密着した自動車教育を推進していくための情報交換の場として教育懇談会（意見交換会）を行った。

学校関係者からは、関係団体に対してインターンシップ受け入れ要請や講師派遣などの連携強化に向けた前向きな要請があり、財団に対しては、教材予算確保が厳しい中、教材提供に対する感謝の言葉に加え、教材メニューの充実や今後の支援継続への要請があった。

今年度大幅な見直しを実施した教材メニューに対する意見に関しては、ほとんどの学校からは現メニューに満足との評価をいただいた。

一部の意見として、①自動運転など最新技術関連の教材、②電気科でも活用可能な教材、③スキャンツールのソフトの無料更新券の設定、④始動できる電子制御エンジン、などの要望が寄せられた。財団では、これらの意見、要望を踏まえ、今後教材メニューの追加検討を行う。

また生徒の「クルマへの関心」について、「依然クルマ離れの状況だが、実習やクラブ活動、インターンシップなどにより、前より少し好転して来た」、「生徒が現物に触れることが重要で効果的」などの意見があった。

自動車業界の課題である整備士人材確保については、関係団体側から、整備士の職場環境の飛躍的な改善状況や高卒社員採用後の育成プログラム等について、熱心な説明があり、「クルマへの関心を高めるためには、とにかく現物に触れてもらうことが一番。インターンシップや職場見学、講師派遣の活用など、学校と連携を強化して、そのような機会作りを取組む。」と訴えた。

財団及び推進協議会にとっても、教育現場の生の意見を聞き、学校関係者と自動車業界の変化について共有できたことは、今後の支援方法や整備士人材確保に関する課題を理解する上で大いに参考になった。

* 各都道府県の自動車販売店協会、自動車整備振興会、軽自動車協会、日本自動車連盟支部、日本損害保険協会支部の5団体（一部の県では中古車販売店協会が参加）を中心に構成。

【各贈呈式の様子】



▲青森県（10/10）



▲茨城県（10/17）



▲宮城県（10/31）



▲大阪府（11/2）



▲兵庫県（11/5）



▲三重県（11/6）



▲奈良県（11/13）



▲福島県（11/14）



▲和歌山県（11/14）



▲岐阜県（11/15）



▲静岡県（11/21）



▲京都府（11/26）



▲茨城県（11/28）



▲愛知県（12/3）



▲岩手県（12/5）

【教材贈呈式 開催実績表】

	都道府県名	提供校数	参加人数	開催日	開催場所
1	青森県	4	17	10月10日	青森県自動車会議所
2	滋賀県	3	15	10月17日	琵琶湖ホテル
3	宮城県	10	23	10月31日	ホテルメトロポリタン仙台
4	大阪府	15	35	11月 2日	リーガロイヤル大阪
5	兵庫県	12	29	11月 5日	ANAクラウンプラザホテル神戸
6	三重県	8	23	11月 6日	ホテルグリーンパーク津
7	奈良県	3	11	11月13日	奈良県立王寺工業高等学校
8	福島都	10	32	11月14日	福自販会館
9	和歌山県	1	9	11月14日	和歌山県立和歌山工業高等学校
10	岐阜県	7	21	11月15日	岐阜キャッスルイン
11	静岡県	9	24	11月21日	ホテルセンチュリー静岡
12	京都府	2	10	11月26日	京都東急ホテル
13	茨城県	6	22	11月28日	茨自販福祉センター
14	愛知県	10	26	12月 3日	キャッスルプラザ
15	岩手県	2	13	12月 5日	ホテルメトロポリタン盛岡
	合 計	102	310		

平成30年度 第6回JAEF研修会を開催

・・・平成30年10月2日

研修

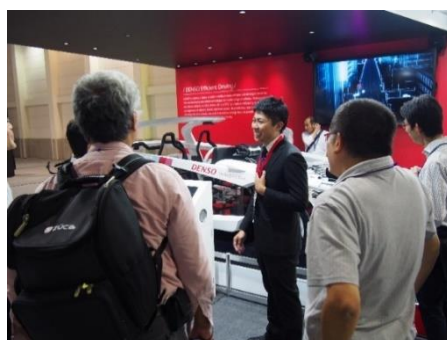
財団は、全国の高等学校の先生方を対象とした第6回JAEF研修会を10月2日に実施、22名の先生方に参加いただいた。

本研修会では、「EV（電気自動車）は明治維新」と題した講演で、一般社団法人日本EVクラブ代表理事の舘内端氏がEVの現状と課題、将来展望について、日本と海外、日本メーカーと海外メーカーを比較しながら、思考や取り組みの違いを動画を交え分かりやすく解説した。参加した先生方からは「各国の環境問題、EVに関する取り組み状況が理解できた」、「各メーカーのEV開発の特徴や思いが理解できて勉強になった」等の感想があった。

講演会終了後には、電動車両に関する研究発表や展示を行う、同分野における世界最大のシンポジウム・展示会「第31回国際電気自動車シンポジウム&EV技術国際会議2018」を熱心に見学した。

JAEF研修会は、今回をもって今年度の計画を完了した。合計6回の研修会参加者は173名、平成5年以降の延べ参加人数は4,403名となった。

ご協力いただいた企業・関係団体ならびに講師の皆様には、紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。



▲第6回JAEF研修会の様子

財団は10月から11月にかけて右表の通り事業ごとの部会や事業委員会、企画委員会を開催した。4事業とも平成30年度事業計画に沿ってほぼ計画通りに進捗していることが報告され、報告事項は異議なく承認された。

個別には、調査研究事業に関しては「電気自動車の普及が進むノルウェーにて、運転レベル・マナーの特徴はあるか」、研修事業に関しては「JAEF研修会でキャンセルが多かった原因は何か」、技術教育支援事業に関しては「今年度の提供教材メニューの内、申請がなかった教材はあるのか」、そして事業総括に関しては「事業計画がたいへん順調に進捗しているが、今後の主要な活動は何か」等の質問があった。

部会・委員会の委員を務めていただいている関係団体や企業の方々や高等学校の先生方に改めてお礼を申し上げますとともに、今後とも財団事業推進にあたりご支援をお願い申し上げます。



▲研修部会の様子



▲事業委員会の様子

【部会・委員会の開催実績】

部会・委員会名	開催日
調査普及部会 (調査研究事業、普及啓発事業)	10/18 (木)
研修部会 (研修事業)	10/23 (火)
技術教育部会 (技術教育支援事業)	10/29 (月)
事業委員会 (事業総括)	11/ 1 (木)
企画委員会 (財団運営)	11/ 7 (水)

30都道府県（53件）の研修会に講師を派遣

……平成30年10月～12月

研修

財団は各高等学校からの要請を受け、30都道府県（53件）の研修会に関係団体・企業から専門の講師を派遣した。受講者は先生・生徒合計で14,409名に上った。

「交通安全」に関する講師派遣が37件、受講者数は13,360名となった。件数の内訳は「自転車・歩行者から見た道路交通と安全」13件、「交通事故を起こして問われる責任」10件、「ドライバー（自動車）からの見え方を踏まえた自転車・歩行者の交通安全」9件、「自転車を取り巻くリスクと問われる責任」2件、新設した「二輪車（バイク）の交通安全」2件、そして「夜間の交通安全対策」1件であった。

今年度より受講対象者を生徒まで拡大した「環境技術」及び「交通技術」に関する講師派遣の件数・受講者数は、其々3件・278名、4件・346名であった。

また「自動車の最新技術」に関する講師派遣は9件（「日産・電気自動車」7件、「トヨタ・ハイブリッド車」2件）で、受講者数は425名であった。



▲交通技術に関する講師派遣の様子
(筑波大学付属駒場高等学校)

「交通安全」に関する講師は、日本自動車連盟支部及び日本損害保険協会支部、「環境技術」は次世代自動車振興センター、「交通技術」はITS Japan及び交通コメンテーター 西村直人氏、「二輪車の交通安全」は日本二輪車普及安全協会にご協力いただいた。また「自動車の最新技術」の講師は、広島日産自動車、愛知日産自動車、山形日産自動車、近畿日産、札幌日産自動車、香川トヨタ自動車、群馬トヨタペット各社にご協力いただいた。

いずれの研修会の参加者からも大変高い評価をいただくことができた。

ご協力をいただいた関係団体・企業ならびに各県の推進協議会の皆様には、紙面をお借りして改めて厚く御礼申し上げます。

(講師派遣実績表は、添付にて掲載)



▲二輪車の交通安全に関する講師派遣の様子
(埼玉県立秩父農工科学高等学校)